

2022年5月17日

報道関係各位

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

データ活用基盤の構築支援サービス「D-Native」を提供開始 アプリケーションをテンプレート化し、データ利用環境をクラウド上で迅速に構築

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(代表取締役社長:柘植 一郎、本社:東京都港区、略称:CTC)は、社内外にある様々なデータを収集、分析し経営判断に利用するデータ活用基盤の構築支援サービス「D-Native」を本日から提供します。価格は2千万円からで、データを活用してデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進を図るお客様に向けて提供し、3年間で60億円の売上を目指します。

DXの推進にあたり、ビジネスで得られるデータを活用し分析結果を経営に役立てていく「データドリブン経営」が一層重要になっています。しかし、様々なシステムにデータが分散しているケースが多く、また、それぞれのフォーマットで保存されているため、データの整理や統合などが課題となっています。

今回提供を開始する D-Native は、データ活用に必要な「収集・整備」、「加工・分析・AI 開発」、「蓄積・処理」、「運用・監視」というフェーズに対応したクラウドネイティブなサービスをパッケージ化したものです。さらにビジネス面の課題整理につながる機械学習やデータ分析のベストプラクティスをテンプレート化しており、導入にかかる期間を最大で4割削減できます。

CTC は、データウェアハウス及びビジネス・インテリジェンスなどのデータ活用分野で、システムの構築や運用を含めた長年のサービス提供実績があり、蓄積したノウハウをベースに利用するデータの選定やシステムの設計から、導入後の継続的な改善までの支援サービスをワンストップで提供します。

CTC には、世界の様々な先進ベンダーとのグローバルなパートナーシップと、お客様のニーズに合わせて各技術を組み合わせた最適なソリューション提供という強みがあり、今回の D-Native のサービス提供につながっています。

今後 CTC は、D-Native を中心に、データ活用に関連するトレーニングサービスの拡充も図り、データドリブン経営を含めたお客様の DX に貢献していきます。

<D-Native サービス構成>

提供サービス	中心となる製品	概要
データ収集・整備	Informatica Data Management Cloud (米国 Informatica 社)	・システム毎の異なるフォーマットのデータ連携の開発・改修をノーコード開発により効率的に実現
データ加工・分析・AI 開発	Databricks (米国 Databricks 社) ^{※1}	・データの加工、分析、可視化に加え、AI/機械学習も備えた SaaS 型の統合データ分析基盤 ・データ/プロセスサイロの解消、データ基盤のコスト削減、柔軟かつスケラブルな AI/ML 環境の実現
データ蓄積・処理	Snowflake (米国 Snowflake 社)	・高速並列処理により、データベースの作成・処理時間の高速化を実現 ・目的に応じてデータを加工・蓄積し、サイロ化されたデータの統合・共有・分析ワークロードを実行するためのデータプラットフォーム
運用・監視	Datadog (米国 Datadog 社)	・マルチクラウド環境での監視及びログ分析 ・表面化しないシステム状況を把握し障害を捉え原因の特定に役立つオブザーバビリティ(可観測性)プラットフォーム

※1 今回の提供に合わせて日本で初めて販売代理店契約を締結しました。

<D-Native サービスイメージ>



今回のプレスリリースに合わせて、以下のコメントを頂いております。

当社はビッグデータや AI を活用し、あらゆる企業のビジネス課題の解決やイノベーションの加速に貢献するべく、日本における「データと AI の民主化」を今日まで推進してきました。この度、日本の DX を力強く牽引されてきた CTC 様と国内初となる販売代理店契約を締結し、CTC 様のソリューション群に、当社の「レイクハウス・プラットフォーム」を追加頂いたことで、より一層データと AI の民主化を進めることができると確信をしております。

データブリックス・ジャパン株式会社
社長 竹内 賢佑

※ 記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
※ 掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

<報道機関からのお問い合わせ先>
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
広報部

E-mail: press@ctc-g.co.jp